

## 顧客第一主義は変わらず

—お客様への新年のメッセージをお願いします。

**野上** 当社はもともと顧客第一、地域密着が基本です。これからはお客様と一緒に何をやるかが大事です。右から左に商品を流すだけで済む時代ではありません。雑誌やwebを使ったプロモーション、フェアやセミナーの共催、個別案件の提案支援など新しいことだけではなく色んなことに、今まで以上に一緒に取り組むという姿勢で臨みます。



野上常務

**安永** これからのディストリビューターは従来の販売代理という立場に加え、市場ニーズのメーカーへの情報提供、組み込み作業の提供、ユーザーの購買サポートなど、かゆい所に手が届くことが求められています。デジタルのようであり、実はアナログ対応が重要なのです。機能を補完する仕組みを提供することによって、お客様に儲けてもらうこと、それが結果として当社の利益にもつながります。

**柏田** お客様に対する思いや基本姿勢は変わりません。その基本はお客様のご要望にお応えすることです。この思いを今後も継続していきます。

「ダイワボウと仕事をして良かった」と言われるのが一番うれしい。「ダイワボウはそこまでやってくれるのか」と言われるようにしたい。

**門前** テキスタイルは、お客様の延長に開発があります。

従来のお客様との共同作業による開発を優先し、既存の顧客のシェアを高めていきたい。それと、対米向けインナーの生産を拡大するためにインドネシアに新たな生産拠点を構築する予定です。コスト、品質、納期が評価された結果だと考えています。国内向けについては市場ニーズに合わせた開発が重要ですね。機能性インナーに特化し、売上増となっていますが、今後とも機能性インナーの開発を強化していきます。

カジュアル衣料は苦勞していますが、今後はODMに注力するつもりです。お客様に向けて、我々が展示会を開く。そこに既存のお客様やリテラーに来ていただいてODMによる素材、スタイル、色などダイワボウ商品の提案を行っていきます。



柏田常務

—最後に阪口社長からお願いします。

**阪口** 菅野前社長からバトンタッチされて半年になります。

各事業会社の商材をどう結びつけていこうか。B2B、B2Cへの展開。健康・安全・安心、環境配慮型の商品・サービスを提供する企業としてどう発展していくのか。様々な課題はありますが、それを乗り越えることで、よりよい収益、喜ばれる会社を目指します。そして、お客様の喜びを自分のものとして、明日を築きたい。当社は本年4月をもって創立70周年を迎えます。これからも顧客との結びつきを深めながら、新たな歴史を刻んでまいります。

## ダイワボウノイ 「granfuse/グランフューズ」 日本製にこだわる

ダイワボウノイは、11春夏から衣料品ブランド「granfuse」、同ブランドのアロハラインである「Aloha made from granfuse」を本格的に展開します。自社素材を基本に、セレクトショップ、専門店向けに卸販売をスタートします。

対象は20代後半から30代で、メンズ40%、レディース60%の構成です。志村修平チーフデザイナーによると、「granfuse」のコンセプトは「偉大なる融合」です。糸の開発からスタートし、こだわりのオリジナル素材とオリジナルデザインで衣服に昇華させます。

さらに日本製にこだわるのがこのブランドの特徴です。

「Made in Japanの力を改めて感じていただくため、日本の職人の方々の協力を得て製品化しました。こうしたこだわりが、ファッションやアート、音楽に関心のある方々に伝わることを願っています」と志村氏は語っています。

11春夏のテーマは「ミリタリー」です。また、外部のアーティストとのコラボレーションも試みます。11年春夏シーズンは、パリ在住のイラストレーター「Miwa Goto」、縫いぐるみデザイナー「CRAM JAM CHEST」とのコラボ作品を提案しています。

「当面はブランドイメージを確立したい。昨年10月の合同展ルームス リンクに出展した



「granfuse」チーフデザイナー 志村修平氏

のも、市場へのアピールのためです。専門店からも評価を得ました」と志村氏は手応えを語ります。

11秋冬からは「granfuse Lux」を立ち上げ、ミラノから発信することも計画しています。

「granfuse」の価格帯(上代)はシャツで1万7,000円～、パンツで2万2,000円～。このデフレ傾向の中で、逆に価値あるものを適価で販売するのは勇気のいることです。

「中国からの観光客がMADE IN JAPAN商品を探して買っているのに、日本では安価が全てのような風潮があります。これに一石を投じること、その先兵となることを模索していきます」と志村氏。

すでに、表参道のギャラリーPENDULUMに展示拠点を構えて活動を本格化させている刺激的な気になるブランドです。

詳しくは、granfuse.comで検索してみてください。



ベントイルのトレンチとドライワッシャーパンツ(左)ドライワッシャー上下と「Miwa Goto」デザイン柄のショール(右)



表参道ギャラリー「PENDULUM」での展示